

《履修上の留意事項》遠隔講義のみ実施

《担当者名》○田村至 今井智子 前田秀彦 小林健史 飯泉智子

【概要】

言語聴覚療法の臨床のなかで、特に評価・診断に焦点をあてて講義を行う。評価における検査の位置づけと意義を理解したうえで、言語聴覚障害の評価・診断に関わる種々の検査法・評価法・診断法の理論、実施の原則について、言語聴覚士が扱う5つの障害分野（聴覚障害、失語・高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語障害、摂食嚥下障害）別に学ぶ。この科目は2年次後期および3年次に配置されている言語聴覚障害学の各論および演習の基礎となる科目である。

【学習目標】

1. 言語聴覚療法の臨床の流れを説明できる。
2. 言語聴覚療法における評価および評価における検査の位置づけを説明できる。
3. 検査の意義、検査の信頼性と妥当性、検査の標準化および標準値、検査結果に影響する要因を説明できる。
4. 各障害分野における基本的評価方法の理論的背景を説明できる。
5. 各障害分野における基本的検査の目的、実施の原則、実施方法を説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の進め方 言語聴覚療法の臨床の流れ 言語聴覚療法における評価・診断	田村至
2	検査の基本	検査の位置づけ/検査の意義/検査の標準化と標準値 / 実施の留意点/検査の信頼性と妥当性/結果の解釈	田村至
3	障害分野別/聴覚障害	聴覚障害の評価・診断	前田秀彦
4	障害分野別/ 失語・高次脳機能障害	失語・高次脳機能障害の評価・診断	田村至
5	障害分野別/言語発達障害	言語発達障害の評価・診断	小林健史
6	障害分野別/ 発声発語障害学	発声発語障害の評価・診断	今井智子
7	障害分野別/ 摂食嚥下障害	摂食嚥下障害の評価・診断	飯泉智子
8	まとめ	障害分野を統合して総括	今井智子

【評価方法】

課題10%

定期試験90%（18%×5領域）

【備考】

教科書：講義では、資料を配布します。

【学習の準備】

1年次で学んだ「言語聴覚障害学概論」「音声言語聴覚医学」の講義内容を良く復習して授業に臨むこと。

予習は、次回の講義内容を確認し、教科書あるいは「言語聴覚障害学概論」の内容を理解しておくこと（80分）。

復習は、教科書と講義時に配布された資料をまとめ、講義内容の理解を確実にすること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

田村至（言語聴覚士）今井智子（言語聴覚士）前田秀彦（言語聴覚士）小林健史（言語聴覚士）飯泉智子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、言語聴覚障害にかかわる各領域の診断法について講義する。